聴きひたる　月夜の浜辺

中原　中也

月夜の浜辺

中原　中也

月夜の晩に、ボタンが一つ
波打際に、落ちてゐた。

それを拾つて、役立てようと
僕は思つたわけでもないが
なぜだかそれを捨てるに忍びず
①僕はそれを、袂に入れた。

月夜の晩に、ボタンが一つ
波打際に、落ちてゐた。

それを拾つて、役立てようと
僕は思つたわけでもないが
②月に向つてそれは抛れず
浪に向つてそれは抛れず
僕はそれを、袂に入れた。

月夜の晩に、拾つたボタンは
指先に沁み、心に沁みた。

---

③月夜の晩に、拾つたボタンは
どうしてそれが、捨てられようか？

確認テスト 詩を読んで、問いに答えなさい。

(1) 第一連を反復している連を漢数字で答えなさい。

第□連

(2) 第二連の一部を反復しながら、内容を発展させている連を漢数字で答えなさい。

第□連

(3) ――線①「僕はそれを、袂に入れた」のはなぜか。適当なものを選びなさい。

ア 何かの役に立てようと思ったから。
イ なんとなく捨てることができなかったから。
ウ 海に向かって投げ、浪に流そうとしたから。

〔　〕

(4) ――線②「月に向つてそれは抛れず／浪に向つてそれは抛れず」に用いられている表現技法として適当なものを選びなさい。

ア 体言止め　イ 倒置(とうち)　ウ 対句(ついく)

〔　〕

(5) ――線③「どうしてそれが、捨てられようか？」が表す心情として適当なものを選びなさい。

ア 捨てる方法を知りたい。
イ 捨ててしまいたい。
ウ 捨てられてしまうだろう。
エ 捨てられるはずもない。

〔　〕

(6) 「月夜の浜辺」の説明として、適当なものを選びなさい。

ア 用いられている言葉は文語である。
イ 七音が繰(く)り返され、リズムを生んでいる。
ウ 浜辺の光景を写実的にうたった叙景(じょけい)詩である。

〔　〕